

# さんぱう

34号 1969.9 ボーイスカウト京都38周年隊

## 9月のテーマ 新なる前進

《はじめに》 秋の夜 (スカウト9月号より)

やがて、静かな長い夜が訪れる  
このような夜には、過ぎ去った夏の活動を

振りかえってみよう

日焼けした腕

汗にまみれたスカウトユニフォーム

はき古いた靴

しかし、満足していくはいけない

さらに一步前進するのだ

また、落胆していくもいけない

きのうの失敗からあすの成功をみちびくために

では、スカウト諸君に さんはち夜話をしてあげよう。 静かにして-----

### 無名スカウト

1909年の霧にとざされた冬の夕ぐれ、ロンドン郊外の駅に、ひとりの紳士が旅行カバンと地図を持って、汽車から降りた。紳士は行く先がわからなくて困っていた。キビキビした少年が現われたので、紳士は道をたずねた。少年は「私が案内しましょう。」とカバンを持ち先に歩いた。目的地に着いたので、紳士は、銀貨を出しチップとして少年に与えようとした。少年は「私はボーイスカウトです。お礼はいりません、私に一日一善をさせて下さってありがとうございます。」とニッコリヤミの中に消えた。どこの国の少年でも、こんな時は喜んでチップをもらうのに、それを断り逆に礼を言って立ち去るとは……紳士は驚いた。ボーイスカウトだから、と言ったが、それは何であろう。友人に聞くと、ハウエル卿(きょう)が、昨年はじめてつくった少年運動だと答えた。紳士は米国人のボイスという有名な出版業者だった。ボーイスカウトについての書物を生部買って、米国に帰り、友人と話し合ひ、スカウト運動が米国に発足したのは、1910年2月8日のことであった。

15年後には、全米にこの運動がひろまり、その数は百万人を越した。米国スカウトは、その功労者を表彰することになって、いろいろ考えてみると、第1は、ボイスを案内した英國少年だということになり、英國スカウト本部に頼んだり、人を派遣したりして捜してもわからない。名乗って出てほしいといつても出ない。それで、米国側では、協議の末、米国スカウト功労章のメダルの形と同じ型の銅像を作り、「日々の善行を努めんとする少年の忠実が、北米合衆国にボーイスカウト運動を起こさせたアンノウン(知られてゐる)少年のため」と書いて\*



\*あくことになった。

1926年7月4日、ギルエルの森——これはボーイスカウトのメッカであり、指導者訓練の総本山の道場——ともいふべきところで、厳粛(げんしゆく)に、贈呈式が行なわれた。その銅像は、いまでもギルエルにある。



### 9月のアロタラム

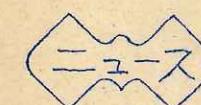
9月 4日	臨時タリンナー会計	19:30~	中川副長宅二階
6日	育成会 総会	19:30~21:30	長休寺本堂
13日	隊集会(班編成式)	18:30~21:00	長休寺

以後のアロタラムは、各自で、空欄をうめること。

班名	9月							当番班
	14(日)	15(月)	16(火)	17(水)	18(木)	19(金)	20(土)	
わし								
こい								
つばめ								
やぎゅう								

### クイズ

- 1から9までの数字のうち二つに割ると〇になる数字があります  
どれでしょう。
- 8が13の半分であることを証明して下さい。
- マッチが7本あります。それを10本にする方法を見つけてください。もちろん折たりしてはいけません。そのままの形で10本にしたいのです。



— 解答は来月号に—



スカウトの新しい一年がスタートしようとしています。  
そしてサンマリ少年隊は新年度の本部スタッフ・シニア上進・新班編成・  
班長・次長任命式は今月の13日(土)にする事になりました。これからこの日は、全員が出席出来る様に! 又、もう少しで進級出来る諸君は、この機会に! 努力下さい。